

平成28年度 燕市西蒲原郡音楽部 活動報告

部長 宮本 均

1 研究主題

音楽に親しみ、豊かに表現するための指導の工夫

2 研究の概要

- (1) 第1回 講習会「ふだんの授業にいかす歌唱指導」
～楽しく、上手な歌わせ方～

〈期日 6月1日(水) 会場 大関小学校音楽室〉

講師 音楽ネットワーク 小林 和子 様

- (2) 第2回 授業研究会

〈期日 11月30日(水) 会場 吉田小学校音楽室〉

授業者 青柳 美徳 教諭(吉田小学校)

題材名 第2学年「ようすを思いうかべよう」

(7/9時間)

指導者 井出 治美 様(加茂市立加茂西小学校長)



3 研究の実際

- (1) 第1回 講演会「ふだんの授業にいかす歌唱指導」

低、中、高学年の教科書から1曲ずつ、実際に歌ったり体を動かしたりしながら指導のポイントを教えて頂いた。歌詞を朗読したり、繋がりのある他の曲と組み合わせたりして児童に想像させることで、表現力が鍛えられること、腹筋を使ったり歌詞の最初の子音を立たせたりして歌うなどの研修を行った。

- (2) 第2回 授業研究会

導入で『海とおひさま』を歌った。「楽しい」、「るるん ららんらん」という言葉から1番、3番は元気よく歌ったことを確認し、「2番の様子や気持ちを表すには、どんな歌い方をすればよいか。」という課題を提示した。課題解決の手立てとして、「つよさのものさし」をグループで相談して歌詞カードに貼るという活動を行い、意欲的に学習に取り組んでいた。

協議会では、日頃の授業の積み重ねがあるからこそ、子どもたちが意欲的に取り組み、話し合いがスムーズであったという感想が出された。また、声のものさしを色画用紙で折り目のついたテープ状にすることで視覚化され、表現の手掛かりとなっていた。反面、2番の歌詞だけでは比較できないので、1番と3番との違いに着目させる必要があったのではとの意見も出された。指導者からは、曲の気分を感じ取るために、雰囲気表現するための語彙を増やす必要があること、速さを表す「少し速い」等の言葉を教えることで、mpなどの強弱記号への円滑な移行につながると指導を頂いた。



4 成果と課題

【成果】 声のものさしを視覚化させることで、話し合いがスムーズに進み、歌って表現する際にも有効であることを学んだ。

【課題】 曲の気分を感じ取るためには、語彙を増やすことが必要である。雰囲気言葉を表現する例を低学年から身に付けさせたり、体の動きで表現させたりすることで、高学年での強弱記号につながっていく。音楽の基本(旋律、フレーズ、反復、問いと答えなど)を日頃の授業で定着させる必要がある。